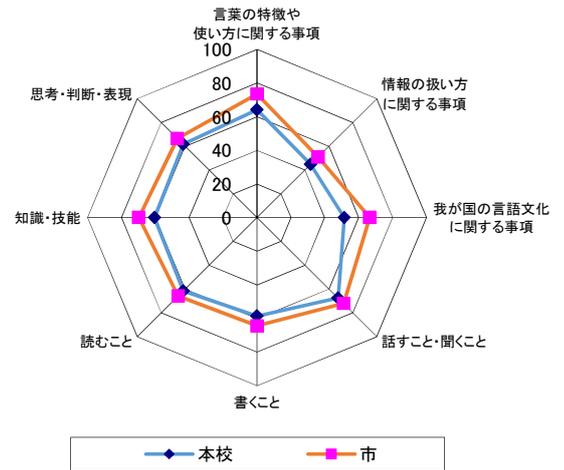


宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.2	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	44.7	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	51.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	67.7	72.3	73.7
	書くこと	58.6	64.3	66.6
	読むこと	61.6	65.8	64.9
	観点別	知識・技能	60.5	69.8
思考・判断・表現		61.6	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

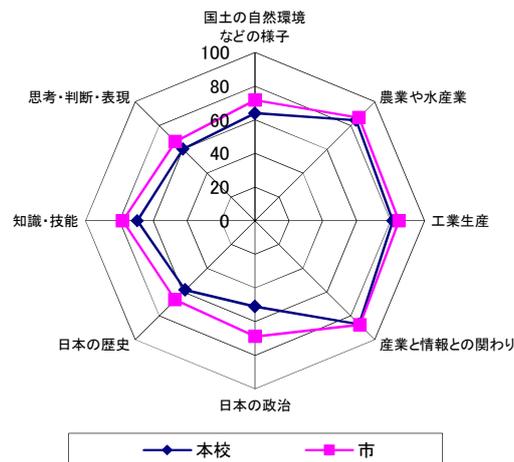
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字の読み書きに関しては、正答率が高い。 ●文法や敬語などの言葉の学習に関する設問は、市の平均を大きく下回っている。	・漢字の読み書きについては、引き続き指導を続けていく。 ・文法や敬語などの言葉の学習は単元の学習が終了した後も年間を通し、折に触れて指導を続けていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問の正答率は48.5%で、市の平均より2.2ポイント低い。情報と情報の関係について理解し、文章に書く設問の正答率は40.9%で、市の平均を10.4ポイント下回っている。	・引き続き、文章の情報を整理する学習活動を計画的に行う。 ・総合的な学習の時間や情報を収集しまとめる学習において、複数の情報から必要な情報を選び、取捨選択する活動に力を入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●語句の由来に関心をもち、和語・漢語・外来語について理解しているかを見る設問の正答率は51.5%で、市の平均を15ポイント下回っている。	・語句の由来や和語・漢語・外来語などの学習内容を継続的に行うようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●大まかな話の内容は捉えられているが、要点を整理し自分の言葉で人に伝えることに関しては、市の平均を11.6ポイント下回っている。	・国語の授業だけではなく全ての学習活動において、話を聞く際には要点を落とさず、話の順序や文の構成に気を付けながら聞く習慣を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●目的や意図に応じた書き表し方については、市の平均とほぼ同じであった。段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書くなど、条件に合わせて文章を書く設問では、市の平均を大きく下回っている。	・引き続き、指定された長さで文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確に書いたりする学習活動を意図的に設定するようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○物語の内容の読み取りについては、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問で、市の平均をやや上回っている。 ●説明文の内容の読み取りでは、叙述を基に文章の内容を捉えたり、情報と情報の関係について理解し、目的に応じた文章を書いたりする設問の正答率が、市の平均を下回っている。	・単元のねらいを明確にして学習を進める。 ・説明文では、要旨の読み取りの学習を丁寧に行い、段落同士の関係について正しく捉えることで、学習内容を理解できるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.9	71.6	69.6
	農業や水産業	84.3	86.7	83.7
	工業生産	81.3	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	87.1	87.7	77.4
	日本の政治	51.1	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	58.3	66.7	66.3
	知識・技能	69.4	78.0	76.7
	思考・判断・表現	60.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

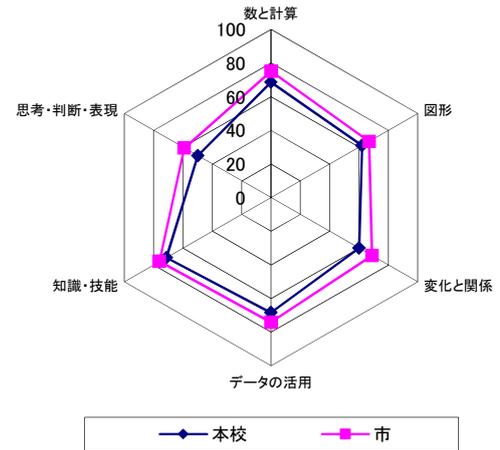
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「世界の中の国土」では、日本の周辺の海洋名についての設問の正答率は75.8%で、市の平均正答率を11.5ポイント下回っている。日本の主な地形(湖)の名称については、解答した児童は全員正解しているが、無回答が13.6%いる。	・日本の周辺の海洋や日本の主な地形について、白地図や写真を利用しながら視覚的に捉えられるように、学習内容に応じて教材の工夫を行う。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○米の生産が盛んな地域についての設問の正答率は90.9%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●米の生産についての工程に関する設問の正答率は75.8%で、市の平均を5.8ポイント下回っている。	・米の生産が盛んな地域について、1位から5位までの県の組み合わせを選ぶことができた。米の生産地とその特徴を結び付けながら考える機会を意図的に設定することで、学習への意欲につながることができるようにする。 ・米作りの1年について「米作りカレンダー」や工程の様子の写真や動画などを活用し、視覚的な理解を図れるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○工業製品の分類についての設問の正答率が92.4%で、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ●日本の工業の特色について、資料をもとにした表現に関する設問の正答率は66.7%で、市の平均を6.7ポイント下回っている。	・工業製品について、工業の特徴を踏まえた分類の理解を図ることで、定着につながった。今後も、身の回りの製品をもとに視覚的な資料を用いた学びが展開できるような機会を設ける。 ・工業生産を支える運輸に関して、利便性に目を向けることで工場の場所とその理由を関連付けて考えられるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○さまざまなメディアの特徴についての設問の正答率は97.0%で、市の平均を0.7ポイント、全国の平均を9.6ポイント上回っている。 ●情報の発信と受信の注意点についての設問の正答率は77.3%で、市の平均を1.8ポイント下回っている。	・テレビ、ラジオ、新聞について、音声・映像・文字のどの種類の情報を得られるのかなど、それぞれの特徴やよさを整理して身の回りでも適切に活用できるように各授業の中で適宜指導する。 ・インターネットの利用について、学年に応じた情報モラルの指導を継続し、情報を扱う上でのルールやきまりについて理解を深められるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本国憲法における国民の義務についての設問の正答率が75.8%で、市の平均を11.9ポイント下回っている。 ●日本の政治における内閣の働きについての設問の正答率が15.2%で、市の平均を27.2ポイント下回っている。	・日本国憲法の国民の義務の内容について、身近な事例を挙げたり、国民・国会・内閣の相互関係を図で表すなど視覚的に整理したりし、内容を理解できるようにする。 ・AIDリルや演習問題等を適宜活用し、基本的な知識の定着を図れるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○源氏物語の理解についての設問の正答率は81.8%で、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ●源平の戦いの理解をもとに資料を判断するについての設問の正答率は40.9%で、市の平均を14.8ポイント下回っている。 ●鉄砲の伝来についての設問の正答率は77.3%で、市の平均を10.4ポイント下回っている。	・児童が日本の歴史に興味をもてるような資料や教材を意図的に活用し、学習意欲の向上を図れるようにする。 ・調べ学習を効果的に取り入れ、児童が課題について探究し、主体的に知識を広げ深められるようにする。 ・資料を適切に読み取り、調べたことをまとめる活動を通して、情報を適切に判断できるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.6	75.1	75.8
	図形	62.1	66.8	68.3
	変化と関係	60.1	68.8	65.0
	データの活用	68.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	71.3	76.1	75.8
	思考・判断・表現	49.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

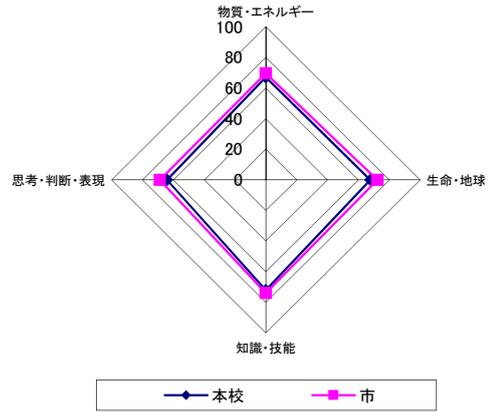
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分数同士の乗法と除法の正答率は90.9%で、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●文字式で文字の値を求める設問の正答率は51.5%で、市の平均を18.4ポイント下回っている。	・朝の学習や算数の授業等で計算練習を繰り返し行い、基本的な計算力の定着に向け指導を継続する。 ・児童の実態に合わせて、単元目標の達成に向けた授業の展開や教材を工夫する。 ・習熟度別学習を推進し、個別指導の時間を多く確保する。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●正多角形・合同・立体について理解し、多角形の内角の和の求め方を選ぶ設問の正答率は54.5%で、市の平均を18.2ポイント下回っている。	・展開図が想像できるよう、具体物を取り入れ自分で操作する機会を多く設ける。 ・タブレットを活用し、図形を操作しながら考えられるようにする。 ・朝の時間等を有効活用して既習事項の復習プリントに取り組み、演習の時間を多く確保することで、図形の学習の基礎・基本の定着を図れるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基準量と比較量から、割合を求める設問の正答率は56.1%で、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ●表から面積と数の割合を求める設問の正答率は59.1%で、市の平均を14.3ポイント下回っている。	・割合や割合のグラフを活用した問題を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。 ・単位量あたりの大きさでの比べ方を確実に理解できるよう、場面を整理するなど、丁寧に指導する。 ・問題文から変化する2つの数量の関係を表や図で表して整理し、読み取る力を高められるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●問題の場面を理解し、平均を考える設問の正答率は30.3%で、市の平均を11.3ポイント下回っている。	・平均・データの見方の問題演習を重ねて基礎基本の定着を図る。 ・難易度の高い問題については、児童の状況に応じて、習熟度別学習を生かし、個に応じた指導の充実を図る。 ・記述式の問題については、自分の言葉で説明する機会を多く設けるなど、指導形態を工夫する。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.1	69.5	65.2
	生命・地球	67.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	72.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	64.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○ふりこの周期は長さ依存することを理解し、同じ周期になるふりこを選ぶ設問の正答率は87.9%で、市の平均を16.9ポイント上回っている。</p> <p>○水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘する設問の正答率は53.0%で、市の平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>●食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化について問う設問の正答率は42.4%で、市の平均を14.3ポイント下回っている。</p>	<p>・実験をする際には、目的を明確にし、比較するための条件や方法を考えさせる場を設定した授業を展開する。</p> <p>・実験結果のまとめ方や図表・グラフの読み取り方の理解を深められるよう、授業の展開を工夫する。</p> <p>・実験結果から考察する際に、友達や他のグループの結果を比較したり、考えを交流したりする場を設定することで、根拠を明確にして結論を導き出せるようにする。</p> <p>・観察や実験の結果から考えられることを正しく考察するために、学習問題に立ち返り、何を明らかにするための観察・実験であるのかを確認しながら学習を進めていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○地面をけずるはたらきについての正答率は86.4%で、市の平均を15.7ポイント上回っている。</p> <p>●ダイコンを保存するために茎や葉を切る理由を問う設問の正答率は37.9%で、市の平均を11.5ポイント下回っている。</p> <p>●知識を問われる設問の正答率は、どの単元も市とほぼ同じである。知識を活用して答える設問の正答率は全般的に低く、特に記述式の問題の正答率が低い傾向にある。</p>	<p>・児童が自然の事物・現象を捉えるための視点や考え方を示し、それを軸とした授業改善に取り組み、理科における資質・能力の育成を図る。</p> <p>・重要語句を知識として覚えるだけでなく、それを基盤にしてグラフや表を読み解くことで何が分かるかを児童が実感できる授業を展開する。</p> <p>・生命の連続性や周囲の環境との関係の中で生きていることを考え実感できるような場を設けるなど、児童の自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	多くの学年で「学習が好き」や「学習していておもしろい、楽しいと思う」、「いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」等の項目が、市の平均を上回っている。宇都宮モデルを踏まえた授業改善が進み、児童が学習の面白さやできる喜びを感じられている様子がうかがえる。引き続き児童にとって「分かる、できる」授業を推進し、児童の学力向上に繋げていきたい。 家庭での学習時間については、平日・休日共に市の平均を上回っている学年が多い。家庭学習の量的な面を意識しつつ、自主学習等で家庭学習の習慣化と質の向上を図ってきたい。
主体的に学び考えを広げ深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「学習に進んで取り組んでいる」や「グループでの話し合いに進んで参加している」について、学年ごとにばらつきはあるものの、市の平均を上回っている学年が多い。「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」や「ものごとを比べながら考えている」についても、市の平均と同程度、または上回っている学年が多い。 「学習した内容を次の学習につなげることができる」については、多くの学年で市の平均を上回っている。「新しく習ったことを繰り返し練習している」については、上学年は市の平均を上回っているものの、下学年は市の平均を下回っている。
1人1台端末、ICTを活用した授業改善の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	1人1台端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」や「パソコンを使って相手に分かりやすく自分の考えを伝えることができる」等、ICTを活用した授業に関する設問への肯定的回答は、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。1人1台端末の日常的な利用が進んだ様子がうかがえる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・児童の主体的な学びを促せるよう課題設定を工夫すると共に、基本的な学習内容が定着できるよう、児童一人一人の理解度や到達度を基にした各教科の授業構成や単元展開、個別支援の工夫を図る。
- ・話し合い活動を全教科、領域で日常的に行い、友達から学ぶよさを実感できるようにするとともに、児童の学びを広げたり深めたりできるようにする。また、児童の学びを次の学習に繋げ生かす学習サイクルを確立できるよう、授業構成や単元展開の工夫を図る。
- ・家庭学習について、①必須の課題（宿題）、②自主学習の二本立てを継続する。①で基本的な学力の定着を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる知識や技能を生かす学びの調整力と一人一人の学習意欲の向上、家庭学習の習慣化を図れるようにする。
- ・1人1台端末の効果的な活用方法について、児童の学力向上に向けて、引き続き情報交換と改善を図っていく。